

事業評価						
事業名	白い森ブランド構築事業					
事業年度	令和2年度					
事業期間	H30年度～平成32年度					
地方創生 推進交付金 事業費	交付対象事業 総額	143,848,000円				
	令和2年度計画額 (交付予定額)	52,302,000円 (26,151,000円)				
	令和2年度実績額 (交付額)	49,141,870円 (24,570,000円)				
重要事業 評価指標 (KPI)	指標名	事業開始前 (計画策定時点)	事業終了時 目標値	R2年度 目標値	R2年度 実績値	R2年度 達成状況
	地域総合商社の売上 (百万円)	0	54	54	4	更なる取組が 必要
	地域総合商社町内取引事業者 数(事業所)	0	8	8	13	達成
	1人当たり町民所得 (万円)	246	247	247	283	達成
	本事業の実施によりイベント に関わった者の数(人)	0	2,000	2,000	995	更なる取組が 必要

所管課評価	達成状況	2	← 1 目標以上に達成できた 2 概ね達成できた 3 達成できなかった
	達成状況 の要因	ふるさと納税の配送業務等をとおして、町内事業者との取引が増えたため。	
	課題等	コロナ禍により、予定していた観光事業ができず、外出自粛等により商品の売り上げも伸びなかった。また、予定してた町内イベントの中止、首都圏でのイベントや出店の中止が相次いだためイベントに関わった人の数も伸びなかった。	
	今後の 取組の方針	今後は、観光事業の実施及び取扱商品を増やす等により売り上げを確実に上げていく。	

委員評価
・ 地方版総合戦略のKPI達成に有効であったとの意見 ・ 効果検証において「改善が必要」との指摘事項はなく、事業は適切に実施されている。

地方創生推進交付金を活用した 取組の状況について

・白い森ブランド構築事業

令和 3 年 3 月 2 4 日

小 国 町

白い森ブランド戦略室

白い森まると塾の開催

おもに町内事業者、生産者等を対象に今後のビジネスにつながるセミナーを開催することで、地域経済の活性化と町民が一体となって白い森ブランドをつくりあげる気運を醸成する。

■ 実施結果

Vol.13 「地元の素材が輝く商品開発と全国にファンをつくる仕組み」 寿々瀧 代表取締役 鈴木将 氏 参加者 25名

Vol.14 「コロナ時代の新しい地域のあり方とビジネス展開
～自分たちの事業・ビジネスを育てていくには～」 OKa-Bizセンター長 秋元祥治氏 参加者 21名

Vol.15 「徹底した店づくりが旅の目的地になるのかもしれない
～路地裏から全国へ広がったカフェ～」 風間総合サービス 代表取締役 風間教司氏 参加者 20名

Vol.16 「自分たちの手で地域の価値を醸造する
～ゲストハウス「三豊鶴TOJI」の事例から～」 三豊鶴 喜田貴伸氏・矢野太一氏・細川貴司氏 参加者 21名



白い森おぐにビジネス創出塾の開催

小国の優れた地域資源を活用したビジネスプランや、町外の事業者と連携したビジネスプランなど、新たなビジネスプランを発掘して多様なビジネスの創造を図り、町民のチャレンジを支援するための取組み。応募からコンテストまで伴走支援の形でプランのブラッシュアップをサポートし、コンテストにおいて優れた評価を得たプランには賞品を授与。コンテスト後も事業化に向けたサポートを継続。

■ 応募数：起業・創業部門 3名、起業アイデア部門 2名

■ コンテスト：R2.12.13(日) 地域外審査員 4名 地域内審査員 1名 来場者 約25名 *まると塾Vol.15と同日開催

最優秀賞（賞金30万円）

井上 昌樹（農業）「米を通し『米沢街道』の暮らしを味わいつくすプログラム」

優秀賞（賞金10万円）

村田 篤則（麺屋雪国）「白い森の赤い辛みそ」

起業アイデア賞（賞金5万円）

今野 優希（小国高校2年）「町の本屋さん」

審査員特別賞（賞品）

保科 奈緒（小国高校2年）「小国町から無くなってしまったイベントを復活させる」

オーディエンス賞（賞品）

中川 繁輝（東北芸工大4年）「小国チャレンジャー応援プロジェクト」



白い森おぐに 新潟・山形交流 ダンスフェスタの開催

新潟・山形両県の交流の輪を広げ、主たるマーケットである新潟圏での認知度向上を図るため、一昨年度より開催。開催に向けて準備をすすめてきたが、コロナ禍により中止。

スノーボードイベントの開催

横根スキー場の魅力向上と、スノーボード人口の拡大とレベルアップを図るため、スノーボードイベントを開催する予定であったが、コロナ禍により中止。

白い森の国”ふるさとおぐに”フォトコンテストの開催

- 応募人数・作品数：一般の部：27人 80点 町民の部：23人 65点
- 応募者：山形県内、新潟県、福島県、茨城県、東京都 ほか

観光パンフレットのリニューアル

QRコードにより白い森ポータルサイトと連動した、フォトブックスタイルの観光パンフレットを18,000部制作。道の駅、まちの駅、公共施設等に設置。



フォトコンテスト 最優秀賞 「いにしえ」



町民の部 優秀賞 「初夏の出会い」

白い森おぐにプロモーション活動の概要

楽天イーグルス復興マルシェ（宮城県仙台市）

東北の魅力発信と地域を応援を目的に、楽天イーグルスが開催する「がんばろう東北シリーズ」に出展し、白い森おぐにのPRと特産品販売を実施

■ R2.9.11（金）～ 13（日）

* 荒天のため9/12中止

■ 売り上げ：105,840円

■ 人気商品：白い森のきのこハウス、乾燥きくらげ、赤パンツ、あけびかごバック、猫じゃらし

* 首都圏等のイベントについては、コロナ禍により出展せず

その他プロモーション

■ 雑誌掲載

「女性セブン」 11/5発売号（町・ふるさと納税のPR）

「月刊CARELL」 3/20発売号（ECサイトおぐにもんのPR）

■ ラジオ番組

エフエム山形 「ふるさと納税わがマチへ」

11/28 9:00～9:30（町・ふるさと納税のPR）

エフエムいたみ 「お国じまん旅じまん！」

3/8 11:30～12:00（白い森・リモート観光のPR）

■ テレビCM

Ten「家計を応援！プレゼントキャンペーン」 6/1～6/15 * 抽選で視聴者に特産品をプレゼント



白い森おぐにまるごと体験・交流事業

若い世代を中心に、本町を訪れ町の魅力である人材、景色及び食材等を存分に堪能することで小国町をまるごと体感・認知してもらうとともに、首都圏の本町ファン同士等が交流することで参加者が関係人口となり、町のPRや情報発信はもちろん、将来的な移住定住につなげていく

- 委託先：合同会社 NIPPON TABERU TIMES

- 実施内容

- 小国町内での体験ツアー

- 年2回開催（10月、3月） 参加者 延べ7名

- 首都圏でのイベント 年1回

- コロナ禍によりオンライン開催

- R3.2.27 旅するレストラン 参加者16名

- オンラインイベント 年3回 参加者 延べ 32人

- R2.7.「山形の郷土料理『ダン』の手づくり教室」

- R2.8.「Go to リモートトリップ小国町（ピザ作り）」

- R3.2.23 「雪国名物”かまくら”で日本酒を語らナイト」



白い森おぐにの認知度向上に係る取組み

白い森おぐに食材PR業務

首都圏において白い森おぐにの食材の魅力をPRし、ファンの獲得につなげるため、都内飲食店に委託し小国食材を使ったメニュー開発とオリジナルメニューの提供を行う予定であったが、緊急事態宣言によりテイクアウト、宅配（お取り寄せ）に切り替えて実施。

- 委託先：Tregion株式会社
(東京赤坂店、仙台店の2店舗で実施)
- 期間：令和3年2月8日(月)～3月6日(土)
* お取り寄せは
3月1日(月)～18日(木)まで申込受付

- メニュー：おぐに米のおにぎり食べ比べセット 700円
白い森おぐに御膳（小国食材8品目の詰め合わせ） 2,000円
小国町の雑穀クレープ 1,100円
小国で育った米沢牛のローストビーフ丼 1,200円

- 販売数：<テイクアウト> 東京 仙台

おにぎりセット	20	72
ローストビーフ丼	15	34
雑穀クレープ	7	22
おぐに御膳	11	1

 - <ネット販売等> * 全店舗計

おぐに御膳	36
ほか	



産学官連携によるファーストファニチャーデザイン・製作及び贈呈

町と東北芸術工科大学及び(株)オカムラとの連携協定に基づき、本町の木材を利活用した木工産業の振興や、小さい頃から町産木材と触れ合うことによる木工製品・地元への愛着を醸成するため、3歳児を対象に町内産木材を使用した家具を贈呈する。

<R元年度分>

- 対象者：3歳児 45名
- 贈呈品：tite (トルテ)
(芸工大の学生がデザインした親子用イス)
- 贈呈式：R2.8.22 (土) 実施
親子20組参加
* コロナ禍により昨年度からの延期



<R2年度分>

- 対象者：3歳児 30名
- 贈呈品：Bookman (ブックマン)
(芸工大の学生がデザインしたブックスタンド)
- 贈呈式：R3.3.21 (日) 実施
親子18組参加

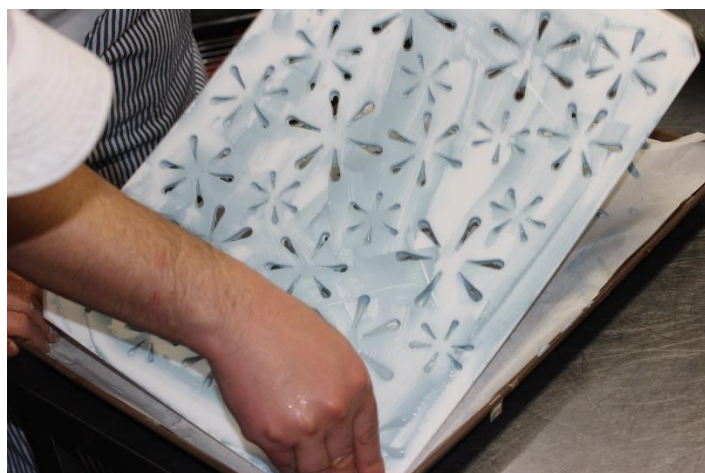


白い森ブランドの商品、サービスの拡充に向けた取組み

小国町付加価値向上推進補助金

町内事業者が商品やサービスの付加価値を高めるため、商品パッケージのリニューアルや広告媒体の製作など、町内製品及びサービスのデザイン力や魅力向上等を図ることを目的とした事業を支援する。

- 対象事業：クリエイターバンクを活用した付加価値を高めるための事業
その他、商品やサービスの付加価値向上に資すると町長が認める事業
- 補助金額：補助対象経費の2分の1、または10万円のいずれか少ない額
- 申請状況：旬彩工房（Webページリニューアル、商品ラベル作成など）
丸屋（白い森ロゴロールケーキ型、ラッピング制作など）
麺屋雪国（辛味噌パッケージ、ミニカード作成）
井上昌樹（新商品ラベル、チラシデザイン） 補助金額計399,000円



商品やサービスのデザイン力・魅力UPに、
付加価値向上推進事業補助金を活用ください

白い森ロゴマークやクリエイターバンクを活用して、商品パッケージのリニューアルや
広告媒体の製作など、商品およびサービスのデザイン力や魅力向上を目指す事業を
支援します。

対象者

- ・ 町内に事業所を設置する個人又は企業等

対象となる事業

- ・ クリエイターバンクを活用した付加価値を高めるための事業
- ・ その他、商品やサービスの付加価値向上に資すると町長が認める事業
- ・ デザインには白い森ロゴマークを使用するよう努めなければなりません。

対象となる経費

- ・ 報償費
- ・ 印刷製本費
- ・ 広告料
- ・ 消耗品費
- ・ 使用料及び賃借料
- ・ その他

デザイナーへの謝礼等
パッケージ、広告媒体印刷費等
新聞、テレビ、ラジオ等の広告宣伝費
用紙代等
会場使用料、設備賃借料等
町長が必要と認める経費

補助金額

- ・ 補助対象経費の2分の1、
または10万円のいずれか少ない額

新商品のパッケージ製作

販促物のリニューアル

商品パッケージの変更

＜お問い合わせ＞
小国町役場 白い森ブランド戦略室
〒999-1363
山形県西置賜郡小国町大字小国小国町 2-70
Tel 0238-97-0821 Fax 0238-62-6464
E-mail mirai@town.oguni.yamagata.jp

白い森

地方創生推進交付金を活用した 取組の状況について

・移住定住・人材確保戦略的展開事業 2020年度分

令和3年3月24日

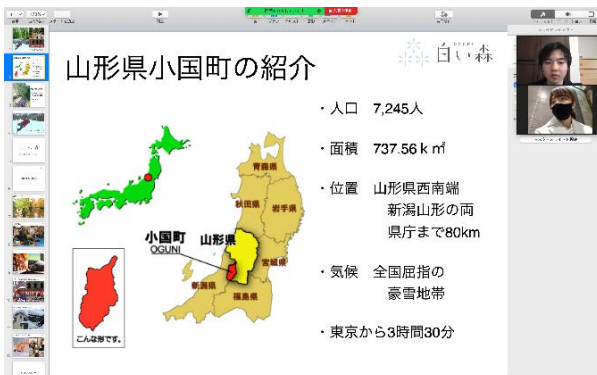
小 国 町

政 策 企 画 室

移住フェアへの出展

山形県や（一社）移住・交流推進機構（JOIN）等が主催する各種移住フェアへ出展し、移住希望者とのマッチングなどを図る。

- LOCALマーケット（オンライン） : 8月29日（土）、主催者（株）スカラパートナーズ主催、渋谷会場とオンラインのハイブリッドで開催、相談者3組3名
※相談者のうち1名が令和3年度より地域おこし協力隊（商業振興部門）として活動予定
- ふるさと回帰フェア2020（オンライン） : 10月10日（土）～11日（日）、ふるさと回帰支援センター主催、ライブ配信により基調講演やクロストークが配信、相談者0名
- やまがた暮らし相談会（オンライン） : 11月29日（日）、ふるさと山形移住・定住推進センター主催、東京交通会館会場とオンラインのハイブリッドで開催、相談者1組1名
- やまがたハッピーライフカフェ（オンライン） : 2月28日（日）、山形県置賜地域移住交流推進協議会主催、ゲスト 元緑のふるさと協力隊 伊藤氏、全体参加者8名
- JOIN移住・交流&地域おこしフェア2021（オンライン） : 3月13日（土）～14日（日）、移住・交流推進機構主催、ゲスト 地域おこし協力隊 吉田氏 岩井氏、相談者2名

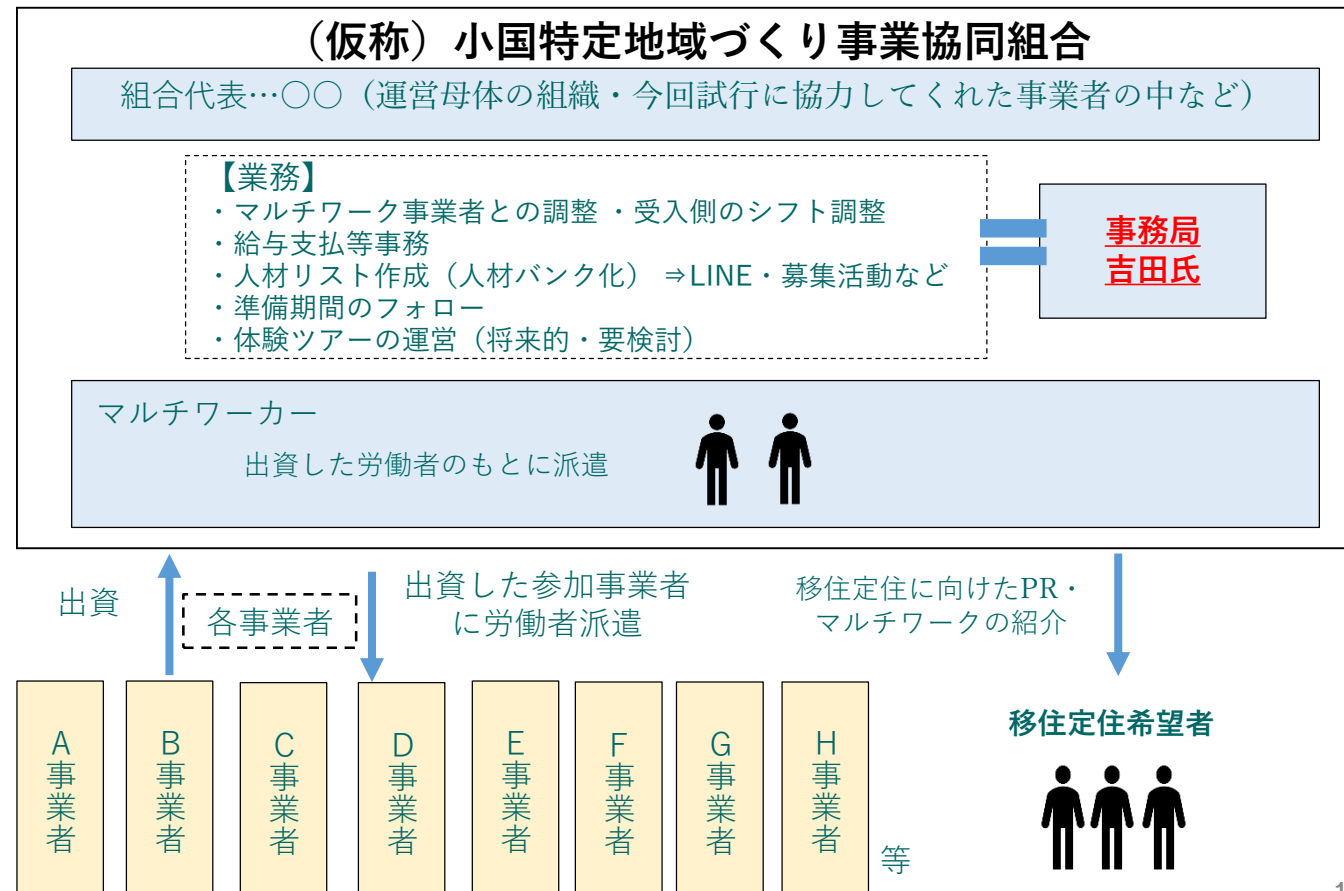


以上の移住フェアや移住相談から
・地域おこし協力隊1名
・1家族5名
合計 6名移住見込み

小国らしい暮らし方・働き方モデル調査業務委託

本町への移住・定住施策の促進、本町の労働力不足の解消にあたり、複数就労（マルチワーク）による働き方の在り方についての検討・調査を行い、本町における導入可能性についてとりまとめるとともに、本町におけるマルチワークの実施組織の事業スキームについて検討している。

- 委託先
ランドブレイン（株）仙台事務所
- 実施内容
 - ・モデルケースのブラッシュアップ・実質化
 - ・住宅環境、受入者の生活基盤の確保
 - ・受入・運営組織の仕組み構築
- 来年度に向けて
 - ・受入組織の構築支援
 - ・段階的な体験ツアー等の実施（短期・中期・長期）



小国町地域資源活用域学連携事業

- ・早稲田大学を中心とした都心の学生による合宿等のプログラムは実施できなかったため、来年度に繋げるようオンラインでの学習会やヒアリングをおこなう。
 - ・新潟大学のダブルホーム、また山形大学の地域教育学部の演習と連携し、オンラインワークショップ等を実施する。
- 早稲田大学等との活動 : 10月下旬から月1～2回ペースで再生可能エネルギーをテーマにオンライン交流を計8回開催
域学OBからの話、参加学生が小国町でやってみたいこと等のヒアリングも行った。
 - 新潟大学との活動 : ダブルホームシンポジウムへの参加（12月19日）
オンラインによる打合せ2回
玉川地区（Fホーム）とのオンライン交流会を予定（3月27日）
 - 山形大学との活動 : 地域文化創生演習での学生向けアドバイス2回
美術、家庭科、体育それぞれに、町民を対象としたオンラインワークショップを企画・実施
 - 地域づくりインターンの会 : オンラインによる打合せ1回（2月18日：今後の方向性等について）

